

## ネパールの子供達との十年

(慶応義塾大学ワンダーフォーゲル部 三田会有志ボランティアグループ)

代表幹事 S36年 田中新弥

二〇〇四年一月から、十年の年月が過ぎました。  
十年の長きに渡り、ネパールの子供達への教育ボランティア活動を優しい眼差しで見守って下さったKWVの皆様、本当に有難うございました。我々の活動を達成、終了することができましたのも、偏に皆様方の温かいお気持ちのお蔭であります。

結果と致しましては、ネパールの三か所の地域中心に、  
校舎の無い学校への、全校舎新設、寄贈 シュリプール村カトゥダール小学校)  
男女別トイレ建設、寄贈  
(シャムシララ村シュリー ラダクリシュナ中、小学校)  
・同、教室への黒板、机、椅子の寄贈  
エヴェレスト・ビューホテル傍のクンデ村小学校、生徒達への奨学金の供与  
・英語、ネパール語の書籍類の寄贈(シャムシララ村、クンデ村)  
・学用品類の寄贈(シャムシララ村、クンデ村)  
等を行い、今回二〇〇四年三月を以て活動を当初のお約束通り、終了させて頂きました事、報告させて頂きます。

この活動は、理事会、常任理事会のご承認を頂き、KWVの有志一同という事で始めさせて頂きましたので、今回、機会を戴き報告させて頂きますが、あくまで有志の自発的な、且つ期間を限定致した活動でありました。  
また、会計監査は伊藤和行会計事務所殿に監査願いました

私が、入部いたしましたのは、一九五七年(昭和三四年)でありましたが、KWVは自然への憧れを抱き 山河、海、村落、の放浪を楽しみ、嫌な暴力等は全く無い素晴らしい夢のような部であり、青春を大好きな自然の中で謳歌させて頂きました。

社会に出て年月を経て私どもの胸の中に常に流れていました想いは、私どもを育てて下さったKWV、そして懐の深い大なる自然への感謝の気持ちであります

いわば、何時かご恩返ししたいというような気持ちであります。

そして、年を経て一九九一年、ヒマラヤのワンデルングを仲間と致しました。その時にエヴェレストの麓で遭遇したネパールの子供達、そして訪れた家庭の状況は私達の楽しい気持ちとは掛け離れたものでありました。  
日本の恵まれた教育環境にある子供達よりは、明るい、眼の輝いた子供達。  
この子供たちに、自然、或はネパールへの恩返しという気持ちで、何かして上げたい

それが当時、私が抱いた気持ちであり、活動の開始の動機であったかもしれません

、それから十数年、数回のネパール訪問の後、ネパールの南、インド国境の傍にあるカトゥダール小学校とSave The Children(英国本部の世界児童保護団体)グループのご紹介で、知り合うことが出来ました。  
当時、カトゥダールの小学校々舎は四本の柱の上に瓦を置く屋根のような物だけで、

窓も壁もない、吹き降りの日は休校。  
部落の人々も約三百人でありましたが、今は私達が寄贈した小学校の周囲に他村の父母も家を移し、大きな集落になっていると聞いております。

これらの活動は、KWVとは、全く関係のない目的でありましたので、有志としての広報活動に留めておりましたが、今回、機会を頂きましたので報告させて頂きたくあります

遥かな国、ネパールの空の下に、遠い、遠い親戚感が少しできたのでは自分達のふみ跡を探してみると ヒマラヤの麓にちょっとだけ残っているのでは? というような、幸せな気持ちであります  
KWVの皆様温かい御理解に心より感謝申し上げます。

以上

# ネパールの子供たちとの10年

代表理事 田中新弥 (S36年)

振り返ってみますと、ネパールの子供たちとの関わりは、既に4半世紀に及ぶ時が流れ過ぎようとしております。

現役の海外遠征隊を三田会としてネパールに送り出し、その翌年、1991年に私も同期の連中とネパールを歩き廻りました。どの山も村も親しみ易く、素朴で昔の日本を歩いているような感じでありました。しかし、その山村での子供たちの生活は日本の子供たちとは余りにかけ離れたものでありました。衣服の貧しさ、教育施設の不備等々が心に強く残りました。一方で大量の物資、食糧を持ち込み、山に登り、村に入り込んでいる我々に何か割り切れぬ思いをテントの中で抱きました。そして、ここの子供たちに我々の力で、少しでも教育に関して援助してあげることができないだろうかという考えを胸に帰国致しました。

このような思いを皆様に何回かご説明した結果2003年、常任委員会にご承認頂き、「慶応義塾大学ワンダーフォーゲル部三田会有志ボランティアグループ」は2004年に正式に発足致しました。活動は10年間続けるという約束でした。

そして、温かい皆様のご支援のお陰で当初の夢が実現致しました。10年間は長いのか短いのか？スタート時点では測りかねました。今、こうして10年という時が過ぎてみますと、我々メンバーの感想は丁度良かったのではないかと、いうものであります。

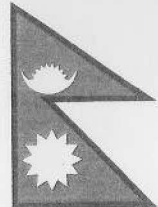
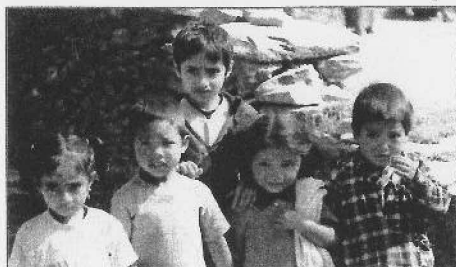
人生の終盤を迎え、幾つかのテーマを成し遂げ、肩の荷が下りたというのが偽らぬ思いです。

結果として、少しは世の中にご恩返しができたかな、というご報告を皆様にできたように思っております。そして、それは全てが雄大なネパールの山々、山村、そして澄んだ瞳の山の子供たちという中での活動でありましただけに、舞台といたしましては素晴らしい経験でありました。

慶応義塾大学ワンダーフォーゲル部三田会、多くの先輩方と繋ることができたこの集まりの素晴らしいさを心から誇りに思います。

皆様の応援がどんなにか我々を勇気づけてくださったか、とても簡単な言葉では言い尽くせないものであります。10年間のボランティア活動を終え、改めて皆様方に心より感謝申し上げます。

2014年6月



## 活動拠点になった場所

- ☆小学校建設・・・A.マホタリ郡カタドール村
- ☆教育資材援助・トイレ建設・・・B.ポシュプール郡シャムシュラー村
- ☆奨学金付与・・・C.クンデ村



## ネパールについて

### 経済

IMFの統計によると、2011年のネパールのGDPは185億ドルであり、鳥取県より小さい経済規模である。1人あたりのGDPは652ドルであり、非常に低い水準である。2011年にアジア開発銀行が公表した資料によると、1日2ドル未満で暮らす貧困層は2200万人と推定されており、国民の70%を超えている。国際連合による基準に基づき後発開発途上国に分類されている。主な産業は農業で就業人口の約7割、GDPの約4割を占める。米、麦、トウモロコシ、ジャガイモなどが主たる農産物だが耕地面積は狭い。それ以外の産業では繊維業と観光産業があるがこれも国内の紛争が絶えず観光客は減少している。

### 教育

15歳以上で読み書きできる人の割合は48.6%うち男性62.7%、女性34.9%(2001年国勢調査より)

### ヒマラヤ山脈

中国国境に接するネパール北部は世界の屋根とも称される8000m級の山々が林立する高山地帯であり、多く登山家を引き付けてきた。以下ネパール国内の主な高山をあげておく。



- ☆サガルマータ (エベレスト) 8,848m
- ☆カンチェンジュンガ 8,586m
- ☆ローチェ 8,516m
- ☆マカルー 8,462m
- ☆チョ・オユー 8,201m
- ☆ダウラギリ 8,167m
- ☆マナスル 8,168m
- ☆アンナプルナ 8,091m